

自然感

くすのき

yumi



季節感

新年明けましておめでとうございます！

季節感のコーナーが始まったのが2006年3月の第128号で今月号で59回を数え、来月で満5年となります…

この間、56種（3種は2回登場）の季節を感じる身近な植物を取上げてきました。強く季節を感じる植物も写真にすると何か分からなくなりボツにしたり、対象がなかなか決まらず…など少しの苦勞を楽しみながらも良く続けられたと思っています。今後は対象を広げ植物以外も取り入れてみたいと思っています。また写真がカラーだと、もっと強く季節感をお伝えできるのでは…とも思っています。さて今月は正月！心に裏腹の無いようにと縁起物として、しめ縄や鏡餅に供えたり、プラスチックの無い時代には茎を加工して水切りカゴやザルを作り、家事に利用したり、また昨今は子供の玩具としてバツなどに化けたりしているとか…

『ウラジロ』 羊齒類
平成23年1月6日
福岡市城南区油山
大塚俊樹



熊洞居人独言

#57

新年あけましておめでとうございます。自然観察指導員の皆さん及び自然の保護に関わっておられる皆様、今年も宜しくお願いいたします。

kuma は今年最初の活動として、先週末に埼玉大学を会場に開催された、日本生物教育学会第60回大会（埼玉大会）へ出席し、現在務めている筑紫女学園大学幼児教育学科の女学生達に行っている講義、「環境・生活」の中で自然との触れ合いをどのように行っているかについて、研究発表を行いました。現代の若者達は、子供時代に自然の中で遊んでいた経験を持つ若者はごく少数です。しかし文部科学省は、教育基本法の基本テーマとして「生きる力」の獲得を掲げています。その意味は、21世紀の知識基盤型社会の中で積極的に生きていくために必要な能力のことです。殆どの人は「生きる力」という言葉を聞くと「基本的な生命の維持」と思われますが、文部科学省が提言している意味は、社会生活の中で各種の事象に対して積極的に関わって行く能力ということです。

私が講義をしています学生達の殆どは、幼稚園・教諭や保育園・保育士を目指しています。私は講義のテキストとして、文部科学省が作成している「幼稚園教育要領」を使っていますが、この基本的なテーマは「生きる力」の獲得です。幼稚園教育は3歳児からスタートしますが、まず幼児達に「身近な自然」に振れさせることから始まります。幼児達は身の回りの自然に「好奇心」を持ち、それがどの様なことかを知ろうとする心、「探求心」をもって活動をします。この「好奇心→探求心」が「生きる力」の獲得へ繋がってゆきます。そこで講義の基礎として、身の回りの自然を子供達にどう伝えて行くか、その為には自然との係わり方をどの様にして行くかなどを、学生達に教えています。そこで実習としてキャンパスの裏山＝高雄山へ行き、身近な雑草や雑木や蝶やトカゲ・アリなどを観察しながらその生活スタイルを知ること、この中で虫眼鏡や聴診器（樹木の音を聞く）の使い方も教えています。また、モウソウチクの竹藪ではタケノコ掘りなども行わせています。その他、海ノ中道海浜公園の動物の森で、身近な動物たちとの触れ合い実習も行っています。学生達は大喜びで実習に参加しています。

～鴨、Come On!～

事務局長 小野 仁

カレンダーは新しくなりましたが、なんだか新年という気分がしません。年齢の所為かもしれませんが、感動や感受性が失われてきたためかもしれません。「これはいかん」と思い、風邪が治ったのを機に那珂川河畔に出かけました。数年前までは姿を隠しながら観察したのですが、ヒドリガモ、アイガモが数羽浮かんでいるのみです。以前は多くの鴨で埋め尽くされていた水面も、寒々としています。

一昨年から、洪水後の環境変化を確認する目的で、山口県内の河川調査を実施しています。一昨年の調査では、洪水後の土石流の堆積した荒れた水田で、本当にたくさんのトノサマガエルに出会いました。例年ならば、田んぼの水落として干上がってしまうのですが、これが田んぼの擬似水面で生き延びたようです。環境の変化が直ちに個体数に影響を与えることが確認できました。

環境の変化が、直ちに生きものに影響を与えることは、ガラパゴス島のフィンチに関する研究でも明らかになっています。このような環境変化が、身近で起きていることは想像できますが、改めて目を向けることを少ないように感じています。今年は、多くの方々と楽しみながら身近な環境を楽しみたいと思っています。それにしても鴨の個体数の減少は気になります。

日本野鳥の会 福岡 主催

※参加費：100円（中学生以下無料）

1/16 (日) 2/20 (日)
 天拝山探鳥会（筑紫野市）
 時間：9:00～12:00
 集合：天拝山歴史自然公園
 問合せ：092-920-7112（山本勝）

1/22 (土) 2/26 (土)
 久末ダム探鳥会（福岡町）
 時間：8:00～11:00
 集合：久末ダム多目的広場横駐車場（管理事務所下）
 問合せ：0940-33-7846（高原和幸）

2/6 (日)
 今津探鳥会（福岡市西区）
 時間：9:00～12:00
 集合：玄洋高校西側道路
 問合せ：092-891-9005（神園道男）

2/12 (土)
 大濠公園探鳥会（福岡市中央区）
 時間：9:00～12:00
 集合：ポート乗り場前
 092-573-1827（森健児）

2/13 (日)
 和白海岸探鳥会（福岡市東区）
 時間：9:00～12:00
 集合：JR 和白駅前公園
 問合せ：092-606-0012（山本廣子）

2/1 (火)
 県営春日公園（春日市）
 時間：10:00～12:00
 集合：旧公園管理センター前
 問合せ：090-7390-3561（小野仁）

日本野鳥の会 筑後 主催

※参加費：100円（中学生以下無料）

1/23 (日)
 濃施山公園（みやま市）
 時間：9:00～12:00
 集合：公園内すいせん橋
 0944-58-1672（野田達行）

**福岡植物友の会 主催**

詳細はお問い合わせください。
 092-575-3131（北野星二）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催<http://mikuminyuuyu.blog111.fc2.com/>

2/5 (土)
 自然観察会（植物・昆虫・野鳥など）
 集合：新九州歴史資料館駐車場
 時間：9:30～12:30
 問合せ：092-920-3072（松永）

要：保険料
 ブログは [三国丘陵](#) です
 ぐにヒットします。



ホオジロアシナガゾウムシ 三国・松永

和白干潟を守る会

1/22 (土)
 守る会定例会議
 時間：10:30～12:30
 集合：和白干潟を守る会事務所
 問合せ：092-606-0012（山本廣子）

1/22 (土)
 クリーン作戦 と自然観察会
 時間：15:00～17:00
 集合：海の広場 駐車場なし
 長靴・軍手があると便利
 問合せ：090-1346-0460（田辺スミ子）

久留米の自然を守る会

1/23 (日)
 総会と講演会「グラミン銀行について」
 古賀暉人氏（新古賀病院会長）
 時間：14:30～17:30
 会場：久留米市役所 3F 会議室 305 号室 その後「まつげん」で新年会
 会費：3000円
 問合せ：0942-46-8622（古賀）

福岡市油山自然観察の森 主催

※往復ハガキでの申込方法はハガキに「行事名・行事実施日・住所・氏名・年齢・電話番号」を記入の上、自然観察センターまでお送り下さい。

1/23 (日)
 冬こそバードウォッチング
 冬鳥たちが勢ぞろいした森でバードウォッチングを楽しみます。
 集合：自然観察センター前
 時間：9:30～12:30
 9:30から受付
 対象：一般
 申込み：不要
 雨天実施

2/6 (日)
 木の実でつくる・かんたん花炭
 木の実やマツボックリなど森の素材を使って、部屋に飾れるかわいい炭をつくります。
 集合：自然観察センター前
 時間：10:00～15:00
 対象：一般 20名
 申込み：往復はがきで1/29必着

問合せ：油山自然観察センター
 参加費：100円
 〒811-1355
 福岡市南区松原夫婦石 855-1
 TEL：092-871-2112
 開館 9:00～16:30（月曜休館）

臨時バス運休のお知らせ
 3月～11月の土日祝日に運行していた臨時バスは、12月～2月は運休します。ご理解の程よろしく願います。

◆オオカミ導入構想続報◆

～こちらについてはどう思いますか？～

2010.12.30 西日本
 害獣による農作物被害に悩む大分県豊後大野市が、対策として提唱する「オオカミ導入構想」が全国に広がりを見せている。同じ状況に置かれた地方自治体による連絡組織をぐる動きが出てくるほか、国政の場でも勉強会が始まった。生態系に及ぶ影響や安全性など多くの課題が指摘されているものの、決り手となる害獣駆除策がない中で「オオカミ」論議が熱を帯びている。

豊後大野市の害獣駆除策



害獣駆除のため大分県豊後大野市が輸入を検討しているハイイロオオカミ（日本オオカミ協会提供）

オオカミ構想に熱視線

害獣による農作物被害に悩む大分県豊後大野市が、対策として提唱する「オオカミ導入構想」が全国に広がりを見せている。同じ状況に置かれた地方自治体による連絡組織をぐる動きが出てくるほか、国政の場でも勉強会が始まった。生態系に及ぶ影響や安全性など多くの課題が指摘されているものの、決り手となる害獣駆除策がない中で「オオカミ」論議が熱を帯びている。

「一緒に研究を」と申し出 藤匠士郎衆議議員（同、超党派の国会議員が名を連ねる「オオカミを復活させる勉強会」を発足。日本オオカミ協会）を誘った。絶滅したニホンオオカミや、害獣駆除のため導入した欧米の実践例の説明を受けた。豊後大野市によると、オオカミ構想に対して地元では賛同する自治体と連携して取り組むたい」と話している。11月にツルネン・マルテオ参院議員（民主）が呼び掛けとなり、川口長野、三重県東牟婁郡（自民）や楠

「一掃に研究を」と申し出 藤匠士郎衆議議員（同、超党派の国会議員が名を連ねる「オオカミを復活させる勉強会」を発足。日本オオカミ協会）を誘った。絶滅したニホンオオカミや、害獣駆除のため導入した欧米の実践例の説明を受けた。豊後大野市によると、オオカミ構想に対して地元では賛同する自治体と連携して取り組むたい」と話している。11月にツルネン・マルテオ参院議員（民主）が呼び掛けとなり、川口長野、三重県東牟婁郡（自民）や楠

西日本新聞の記事でまたオオカミが載っていました。

世の中がオオカミ導入を肯定的に見始めているようで、何か不気味です。

人間の思惑通り、オオカミが行動するのでしょうか。マングースの例、チョウセンイタチの例などが示しているように、そんなに単純では無いと思います。有害鳥獣ということは、人の暮らしの中で人の都合できめているのみです。生態系の中では有害とそうでない生きものの区別は無いと思いますよ。

今、なぜシカやイノシシが増えているのか、その原因は何なのでしょう。原因を洗い出し、そこから考える必要があると思います。

皆さんどう思いますか。

2010.12.20 西日本
ふん尿、鳴き声対策
 大阪府箕面市は20日、開催中の12月議会で、カラスへの餌やりを禁止した「箕面市カラスによる被害の防止及び生活環境を守る条例」案を採決する。可決する見通しで、2011年7月から施行する方針。

大阪・箕面市 条例案採決へ
不順守なら罰金
 市によると、カラスの餌やりを禁止した条例は東京都荒川区が定めている例があるものの、全国でも珍しい。条例案では、餌目当てにカラスが集まってくることを認識しながら餌を放置することを禁止し、餌の回収を義務付ける。市の立ち入り調査を拒否したり、是正命令に従わなかったりした場合は、罰金を科す。箕面市によると、市南部で住民がネコにやった餌を狙ってカラスが集まり、ふん尿や鳴き声などの被害が広がった。協力を求めてもなかなか応じない住民もいたため、市は条例を定めてカラスが集まる原因そのものの排除を目指すことにした。箕面市では今年4月からサルへの餌やりを禁止した「箕面市サル餌やり禁止条例」が施行したばかり。

カラスの餌やり不可ア

【写真投稿】
 先月有明海の干潟に舞い降りましたアオサギです。
 (大牟田の中岡)



◎投稿◎ 新年を迎え、油山に思うこと

今年は例年になく、寒い冬の到来になりました。しかし、この厳しい寒さに耐えると、温かい春の訪れが来ると思っています。

福岡市内から非常に近い油山は、自然に恵まれた私達の大切な資産です。この自然の資産を保全して、自然調査データの蓄積・自然情報の発信や自然体験活動の機会提供など多岐にわたる役割があり、長年にわたり継続して実施されてきたと思います。

これは非常に重要な継続事項だと思えます。陳腐な言い方ですが、継続は力なりでしょう。

油山の自然の豊かさや素晴らしさを知るにつれ、この油山の自然を今まで以上に楽しみ、自然観察ハイキングなどで案内ができれば、大変幸せなことだと思えます。

これら全てを今年以降も、必ず実現できることを願っています。 (徳永紀男 記)

☆☆☆投稿☆☆☆

★その1

新年おめでとうございます。
毎年元旦には太宰府市の実家近くの鷺田川へ散歩することになっています。今年も歩いてみました。
例年に比べて鳥の種類が少なく、川の名前にもあるサギの仲間が全く見られません。初めてのことでちょっとびっくりでした。よく考えてみると、カワセミ、カイツブリといった魚を食べる種が全く見られませんでした。きっと彼らの餌となる小魚が少なかったのでしょう。



川底を全体的に見渡すと、とても白っぽく見えました。そうです、ここもコイを放流して鑑賞しているのです。そのことと小魚を食べる鳥の姿が見えなかったこととどこまで関係があるかわかりませんが、少なくとも川の多様な環境を損ねていることは間違いありません。せっかく「生物多様性年」を経たのに、ほとんどのことが変わらないまま進んでいるように思います。とてももったいないことですね。

今年もその「もったいない」を実感してもらえそうな「楽しいいきもの観察」をひとりでも多くの人たちに伝えたいなと思っています。

皆様にとって良い年でありますように。

松下彩二(卯年男)

★その2：大牟田の中岡さんからの投稿です

新年明けましておめでとうございます。
政権与党の民主党は、政権与党の責任の厳しさを理解していないように感じます。前総理から、政治判断としていた主張が変動しています。

菅総理の判断で諫早の潮受け堤防の開門調査の上告断念を長崎県知事や農林省などに根回しもなく一方的に上告断念をしてしまいました。私は開門調査を行えば、あのギリチンで閉門してからの十三年近くの有明海自体による自然治癒してきました時間が無駄になります。

また、あの貯水池における淡水化した水（家庭脱排水による負栄養化した水）が直接、有明海に流れ込みます。有明海の海底の地下は石炭が掘られていましたので空洞があり閉山後に水を入れていますので柳川市付近の海底では地盤沈下が起こり、そこに海苔で使用します酸など比重が重い液体が溜まると、それが腐敗して硫化水素が発生し青潮となるようです。

家庭脱排水に関しては硫化水素の発生する要因の一つと考えます。また、最近の気象に関しては乾季と雨季がはっきりしてきていますので乾季時期には流れなどの水の動きがないので低酸素水になりやすく嫌気性微生物や細菌などが多くなり自然環境下での均衡が崩れますから病気が多発すると思われます。

そんな水が有明海に流れ込むことになります。

開門したからと言って有明海の再生にはなる訳がありません。

自然環境の真理を理解しているものなら、一度人の手が入った自然環境は元に戻すことよりも人の手が入ったことにより自然環境の自然治癒力を100%と発揮させてまた新たな自然環境の構築に人力された方がベストと考えます。ただ一番怖いのは民主党の政治力です、菅総理はこのところ投げやりみたいな政治判断をしていますし、地方行政は民主党に反旗をひるがえすことにより助成金などを人質にしているようです。

ただ民主党は費用対効果を要求されますから、動植物などにおいて保護に値するか？しないか？はシビヤに判断していくと思われますので有明海の人工島に繁殖時に飛来しますベニアジサシなどの保護活動においての費用に関しては100%出さないとされます。

それよりもあの人工島を再利用する可能性を考え、その時にベニアジサシなどの野鳥達についての配慮を入れて自然環境に負担がかからないように、また費用がかさまないように人にも野鳥にも優しい再開発が必要と考えます。

鳥インフルエンザが出水平野のナベツルなどに感染してしまいました。

鳥インフルエンザウィルスの飛散を防ぐために鶴の生息調査は今年は中止したとの新聞に書いてありました。その文章に記録更新ができないことが残念とありましたけど、私は出水平野に飛来します鶴は記録更新のために飛来しているものではないはず。

自然環境に生息している野生動物を観察するにあたっては、旭山動物園のように自然環境においての、その行動を観察することが大切と考えますが皆さんはどう思われますか？

カイツブリが餌付けされたことにより子育てを放棄したニュースを耳にしました。

★その3

新年 明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い致します。

年末年始、皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。

私の今年の観察はじめは、1月2日に行った東京都日野市にある多摩動物園でした。主人の実家が神奈川県なので、帰省した機会に行ってきました。今回で2度目の来園になります。

多摩動物園には、野生生物保全センターが設置されていてクロツラヘラサギやイヌワシなどの希少鳥類の繁殖に力を入れているそうです。ドーム状の猛禽舎にはオオワシ・オジロワシなどと一緒に11羽のイヌワシが飼育されていた他、繁殖用に個別の檻でもイヌワシが飼育されていました。

この多摩動物園での私のお気に入り、大きな温室のある昆虫園とモグラの生態展示です。

昆虫園の温室は昆虫生態園と呼ばれ、温室の中でたくさんのチョウと一緒に、チャムネエメラルドハチドリ（ペルー・エクアドル原産）4羽が飛び回っていました。このハチドリ、とにかくすばやく飛び回り、双眼鏡ではとらえることができません。じっくり見るには、お気に入りの止まり場所を探すのがポイントかと。今回は、鳴き声も聞くことができました。小声はメジロのようで、強く鳴く時はカワセミに似た感じでした。このハチドリを見ているとあっという間に時間が過ぎてしまいます。

モグラの生態展示では、モグラの坑道が、網で作られたパイプで再現されていて部屋中に張り巡らされています。また、テーブル？に置かれた土中のモグラの住みかが、プラスチック板を通して見えるようになっています。このような工夫によって、モグラが坑道内を動き回る様子や、土の中で眠ったり毛づくろいをする様子が観察できます。普段、土の中で生活するモグラの様子を観察できるのは、貴重だと思いますし、その姿はとても愛らしいです。

その他、多摩動物園ではアブラコウモリ・ヒナコウモリ・カワネズミ・アカネズミ・ヤマネなど日本で、わりと身近に生息しているも中々見る機会の少ない小動物なども生態展示されていて、私の観察心がくすぐられます。自然の状態とは違いますが、普段では中々見ることができないものが観察できる、また行きたいなと思うそんな場所です。近所に住んでいたら通っているかもしれません。

もし、お近くに行かれるような事がありましたら、立ち寄られてみてはいかがでしょうか？

春日市在住 ねこ



猛禽舎のイヌワシ



昆虫園のオオゴマダラとハチドリ



眠っているヒナコウモリ



《前回(185号)の解答》

全農教の「日本帰化植物写真図鑑①」によると、かなりミステリアスな過去のある植物の「さく果」です。名はイチビ(学名:A. avicennae)といい、アオイ科の一年草だそうです。インドが原産の帰化植物です。ところが、日本でイチビというと、ジュート(黄麻、Corchorus capsularis 中国原産と推定される)をも指すようで、現在、強害外来雑草として畑の嫌われ者はどちらでしょう。ジュートは九州でも畳表用の糸の原料などで栽培されていたようですから、こちらではなさそうですね。出題は「本のむし」でした。

ハッピーニューイヤー。カミさんがスーパーで買ってきた、ある食べ物についていた模様です。この食べ物は、何だかわかりますか。

◆◆◆事務局からのお知らせ◆◆◆

インターネット掲示板に会員の皆様の書き込みをお願いします。
ナイス福岡のアドレスはこのページの一番下に表示しています。

会費振込について
それぞれの会員の皆様の会員期限をタックシール部分に明記してあります。各自ご確認の上、郵便局にて下記の郵便振替口座に振り込みをお願いいたします。なお、会計年度は6月から翌年5月末までです。

郵便振替口座:福岡県自然観察指導員連絡協議会 01760-9-15783
年会費:2000円

皆に知らせたいことはありませんか?
皆さんが行っている観察会やイベントの案内、自然保護に関する情報やご意見、お薦めの本の紹介などをお寄せ下さい。原稿は定例会の一週間前までに事務局にお送り頂くとその月の会報に載せることができます。皆さん情報をお待ちしています。

定例会に参加してみませんか?
本会の運営に関する打ち合わせや情報交換、会報の発送作業を原則として**毎月第2金曜の18:00~20:00ごろまで**自然案内舎(有)クラブにて行っています。会員の方はどなたでも参加できるのでお気軽にお立ち寄り下さい。皆さんのおこしを心よりお待ちしております!
次回の定例会は、2011年2月11日(金)午後6時より事務局で行います。2月号の原稿は、2/7(月)までに届くようにお願いします。なお、原稿を掲載するに当たっては編集担当にお任せ願います。

※お願い 会報をホームページで見る環境をお持ちの会員は手をあげて下さい。経費節減のためです。
宜しく願います。

- 他団体の会報の紹介**
- ・日本野鳥の会筑後 会報まめわり 第117号 11.01.01
 - ・NPO法人自然観察指導員埼玉 あらかわ通信 No. 161 2010年12月1日
 - ・島根県自然観察指導員連絡協議会 おとしぶみ81 2010.12.
 - ・久留米の自然を守る会 久留米の自然 第111号 平成23年 1月 1日
 - ・(財)日本自然保護協会 プロ・ナトゥーラ・ファンド第19期助成成果報告書
※2010年11月 内容は、国内研究は三浦半島周辺のカムリウミスズメ保護のための調査など8件、国内活動は市民参加による、ジュゴン生息域の海草藻場のモニタリング調査など13件、他合わせて28件の報告です。
 - ・福岡植物友の会 会報 平成23年1月号



お問合せ: 福岡県自然観察指導員連絡協議会
(NAIS Fukuoka: The Nature Interpreter Society of Fukuoka)
代表: 冷川昌彦/事務局長: 小野 仁/
編集: 田村耕作・山本勝・松永紀代子・吉田素子/会計: 宮原俊彦
〒814-0144 福岡市城南区梅林2丁目10番23号
ハイツ中村401
自然案内舎(有)クラブ内 TEL & FAX: 092-400-1765
URL: <http://www.kurabird.com/>
掲示板 URL: <http://bbs9.fc2.com/php/e.php/~naisfukuoka/>

編集後記 12月の定例発送会は、山本勝・藤川渡・大塚俊樹・冷川昌彦・田中健二・田村耕作が参加。MYから黒棒、KeTからクロワッサンの差し入れ有り。このところ寒い日が続いています。2011年元旦の朝、自宅のそばで約50cmの長さのつららを目撃しました。久しぶりでした。樋井川源流の山笠の滝も多分凍っているだろうな。
田字草

